

## 胸腔鏡・腹腔鏡下手術にて治癒し得た 特発性食道破裂の1例

まつばら たけし ひら はら のり ゆき  
松 原 毅 平 原 典 幸<sup>2)</sup>  
たか なし とし ひろ た じま よし つぐ  
高 梨 俊 洋<sup>2)</sup> 田 島 義 証<sup>2)</sup>

キーワード：特発性食道破裂，胸腔鏡，腹腔鏡

### 要 旨

特発性食道破裂は食道内圧の急激な上昇により食道壁全層が穿孔する比較的稀な疾患であり，治療が遅れると縦隔炎などの重篤な合併症を起こしうる。胸腔鏡下・腹腔鏡下手術で一次的に穿孔部の縫合閉鎖と大網による被覆を行い良好な経過をたどった1例を経験した。症例は63歳男性。嘔吐後の胸部痛，上腹部痛を主訴に救急搬送となった。特発性食道破裂と診断し保存的加療を選択した。翌日，縦隔炎，縦隔気腫の増悪を認め緊急手術を施行した。右半側臥位にて胸腔鏡下に穿孔部を縫合閉鎖，続いて仰臥位にローテーションし腹腔鏡下に有茎大網を作製，再度，胸腔鏡下にて大網を被覆した。術後経過は良好で術後12日目に退院となった。特発性食道破裂に対する胸腔鏡・腹腔鏡下手術は鏡視下手術に熟練した施設では有用な術式と考える。

### はじめに

特発性食道破裂は食道内圧の急激な上昇により食道壁全層が穿孔する比較的稀な疾患である。破裂の程度や全身状態により保存的加療の適応となる場合もあるが<sup>1,2)</sup>，治療方法の選択に難渋することも多く，治療が遅れると縦隔炎や膿胸などの重篤な合併症を起こしうる致死的な疾患である。今

回，我々は当初は保存的加療を選択したが翌日に縦隔炎の増悪を認めたため胸腔鏡下・腹腔鏡下手術で一次的に穿孔部の縫合閉鎖と大網による被覆を行い良好な経過をたどった1例を経験したので報告する。

### 症 例

〈症例〉63歳，男性

〈主訴〉嘔吐後の胸部痛，上腹部痛

〈現病歴〉2015年9月，朝食後に嘔吐。その後の胸部痛，上腹部痛を主訴に発症より約2時間後に当院へ救急搬送となった。なおアルコールの飲酒

Takeshi MATSUBARA et al.

1) 出雲徳洲会病院外科

2) 島根大学医学部消化器・総合外科

連絡先：〒699-0631 出雲市斐川町直江3964-1

出雲徳洲会病院外科